

令和6年度 第18回白山市ミライ会議【概要】

日 時 令和6年10月29日(火)14:00～15:00

場 所 蕪城小学校 2階職員会議室

テーマ 【教育】 コミュニティスクール

出席者 9人〔蕪城小学校運営協議会委員〕



◆運営協議会は授業参観後 子どもたちや先生の様子を直接確認できる良い機会に

(出席者①)

学校運営協議会は、主に二つの柱から構成されています。一つは、校長が作成する運営方針の承認や意見提出を行う会議中心のもので、もう一つは地域学校協働活動であり、地域の力を借りて子どもたちを育てる取り組みです。運営協議会の会議や意見交換は、委員全員で授業参観をした後に行っており、協議会の会長が司会進行を務めています。

(出席者②)

七年前に PTA 会長を務め、学校運営協議会にも多く参加してきました。学校の授業参観や学校の評価を通じて、子どもたちの生活や先生の様子などを直接確認できる良い場だと思っています。蕪城小学校の運営協議会は市内で最も規模が大きく、コミュニティスクール以前からPTAや公民館など地域と密接に連携しており、コミュニティスクールにもスムーズに移行できたと客観的に思っています。校区の問題もありますが、引き続き地域とタッグを組んで取り組んでいければと思います。

最近、北相木地区の工事が進行中で、あの地区の子どもたちが、蕪城小学校か北陽小学校のどちらに行くことになるのでしょうか。今後、住宅開発によって、蕪城小学校の生徒数が増えるのではないかと考えています。

事前アンケートにも書きましたが、私の息子は障害者で、蕪城小学校の入学に際し、健常者でも障害者でも平等な教育を受けることができる環境を整備してくれたことに感謝しています。それが、他の小学校でも、身体や精神に障害のある子どもに適切な支援が行われているか、また LGBTQ の子どもに対しても行われているか、気がかりです。

(市長)

身体的ハンデがある子どもが入学する場合は、前年度にエレベーター設置を行うなど、一つ

一つの要望にも対応できるように取り組みを進めています。性的マイノリティの問題についても、人権教育の観点からも取り組みを進めています。さらに、子どもの権利条例に基づき、子どもたちの意見表明を促しています。学校に通うことが難しい子どもたちには教育機会均等法に則って、学校以外での支援の部屋を用意したりサポートする人を派遣したりするなど、ハンデのある人々が学校を利用しやすくするための工夫を重ねています。

◆学校の校区とコミュニティセンターの区域のズレ 地域連携に課題

(出席者③)

蕪城小学校の校区と出城地区のエリアには微妙なズレがあり、社会体育大会や夏祭りなど地区の行事において、異なる小学校に通う子どもがいるため、活動に齟齬が生じています。地域として全面的に小学校とタッグを組もうと思っても、そこで二の足を踏んでしまいます。この問題を今後どうしたらいいのか、市としても考えてもらいたいと思います。

(出席者①)

例えば、北陽小学校は、旭、郷、松任の3つのコミュニティセンターが関係していて、主体となるコミュニティセンターがありません。蕪城小学校についても、出城地区は出城コミュニティセンターでも、校区内の相木町は松任コミュニティセンターの管轄になります。しかし、松任コミュニティセンターは、やはり松任小学校が中心となります。このように、コミュニティセンターと学区の関係性をどう調整するかは難しい課題であり、進展は容易ではないと思います。

(出席者④)

蕪城小学校の子どもたちの見守り活動を行っています。出城コミュニティセンターに所属し出城地区での活動になりますが、隣接する新成、相木は背中合わせになっていて、松任コミュニティセンターに属する相木町の人はこちら側で活動するというわけにもいかず、やりにくさを感じています。北安田南区町内会が新設され、北安田の端に住む私の前の道路が通学路となり、千代野小学校へ通う子どもたちで賑わっています。

見守り隊は自発的に集まった団体ですが、年々隊員数が減少し、高齢化が進んでいるため、今後どうなっていくのか心配です。引き継いでやってもらえればと思います。

(市長)

地区によって学校の成り立ちが異なり、この問題は校区の変更を行わないと変わりませんが、実際に行うのは簡単ではありません。3つの小学校区があった一木地区では、蕪城小学校の建て替えを機会に、1公民館区に1学校区とするため松任小学校へ校区変更しましたが、何度も地元へお願いに行き、実現にこぎ着けました。子どもの数も学校の配置も、開発の影響や統廃合で、きれいに割ったようにはいきません。確かにコミュニティスクールを運営しながら、コミュニティセンターと連携することは難しい面があると思います。市もそのことは認識しており、校区の変更なども行っています。

見守り活動についても、同じ地区の人に見守ってもらうのが一番いいと思います。

(出席者①)

今回の会議に出席している PTA の方々は、相木にお住まいです。学校運営協議会の回覧物は、出城地区では出城コミュニティセンターを通じ簡単に各家庭に回覧できる一方、相木町では松任コミュニティセンターの規模が大きいため、配布物のエリアを絞ることが難しく、親御さんを窓口にして配布している状況です。協議会としては、一方だけに情報が届かないことがないよう工夫しています。いずれにせよ、コミュニティセンターのネットワークがいろいろな依頼をする際の大きな助けとなっています。

(広報広聴課長)

PTAの立場として、同じ学校内で地区が異なることに、不自由さを感じていますか。

(出席者⑤)

相木地区は、出城地区の離れた場所でも、不自由はありません。

(広報広聴課長)

学校には、地域の先生として、出城地区や松任地区からも来るのですか。

(出席者①)

校区内において出城地区のエリアが広いので、その地区の人に担ってもらうのがいいのではないかと考えています。

◆自然の中で触れ合いながらのハマナスの植樹活動は、まさにジオパーク学習

(出席者⑥)

昨日、小学校5年生を対象にハマナスの植樹を行いました。コミュニティセンターと地元の人とも交えて、ハマナスの植え方を指導し、一緒にハマナスを植え、その後は海岸でのごみ拾いも実施するなど、自然の中で触れ合いながらの活動となり、まさにジオパーク学習の取り組みだと思います。この他にも、玉ねぎ畑で年配の方が指導を行うなど地域の人がボランティアで子どもの指導などの活動が行われていて、蕪城小学校ではコミュニティスクールに力をいれていると感じています。

(市長)

コミュニティスクールが導入される前は、学校の先生たちが地域との連携を担っていたが、現在はコーディネーターがその役割を果たしています。コーディネーターやコミュニティセンターが地域の先生としてどのような人がいるかという情報を一覧化してもらえると、学校も活用しやすいと思います。

◆学校のニーズに応じた持続可能な活動を

(出席者①)

学校の支援ボランティアの募集に関して、学校と運営協議会で相談していますが、地域人材

の活用やゲストティーチャー候補は以前から文科省が挙げていて、その取り組みが継続しているものもあります。既存の仕組みがあるものは、コーディネーターを通す必要はありません。短期間で終わってしまうのではなく、残すものはしっかり残し、学校のニーズを調査した上で募集し、少しずつ支援ボランティアを増やしていきたいと考えています。

(市長)

学校間の連携はどうですか。相木は、松任小学校と北陽小学校がありますが、その学校のコーディネーターと話す機会はないのですか。

(主席者①)

市の研修でグループになった時に話すことはあります。私としては、蕪城小学校をテリトリーにして、ここでできることを行っているのが現状です。

(市長)

学校間の連携や、たとえば相木のように、校区とコミュニティセンターの区域の齟齬で、情報が届きにくい地区もあるなど、問題もあります。

◆授業参観で知る子どもたちの目の輝き 学校と保育の距離を縮めて一緒に見守る機会を

(出席者⑦)

学校運営協議会で授業参観をさせてもらうと、子どもたちがキラキラした目で授業に参加しているのが分かります。クラスの掲示物も整理されていて、子どもが主体的に動ける授業をしていて驚きました。保育も一緒だと考えさせられました。コーディネーターの方から地域の人々を巻き込んだ取り組みについて話を聞き、園でも取り組みたいと思っています。現在、園と学校との関係を深める機会は運動会の観覧程度ですが、もう少し距離を縮めて、子どもたちと一緒に見守る機会があればいいと思います。

(出席者⑧)

小学校と保育園で、より連携を取っていききたいと思います。

(出席者①)

運営協議会も地域に支えられて活動しています。コミュニティセンターの文化祭で子どもの作品表彰を行うというアイデアも、学校からの要請ではなく、地域の子どものやる気を引き出すためのコミュニティセンター側での企画であり、学校にとっても非常にありがたい取り組みです。参加する人の気づきで、輪が広がることは良いことだと思います。

◆中学校クラブ活動の地域移行 小学校での活動も含めた形で考えてはどうか

(出席者③)

北星中学校でもコミュニティスクールの委員を務めていて、中学校で今後クラブ活動を地域に移行するという話を聞きました。しかし、地域に指導者がいるかといえば、指導者になるた

めのハードルは高く難しいと思います。例えば、太鼓やパタンクなど、小学校の段階からクラブ活動で子どもたちとのつながりがあれば、中学校に進んでもスムーズに活動が続けられるのではないのでしょうか。クラブ活動を地域に移行するのであれば、中学校だけでなく、小学校での活動も含めた形で地域クラブ活動をイメージしたほうがいいと思います。

(市長)

中学校では部活動の全員入部制を廃止し、生徒は部活に入らず地域の活動に参加することが可能になりました。小学校から中学校へと活動を繋げるという考え方は、今から目指していくべきことだと思います。出城地区で言えば、小学校から、虫送り太鼓をしている子どもたちもいると思います。そこで学ぶことも多いので、地域のコミュニティセンターで行われている華道や書道の教室に、生徒たちが参加するのも、部活動の一環としてあっていいと思います。

ただし、子どもたちがコミュニティセンターに通うのは、主に土日や夕方になります。コミュニティセンターには、その時間帯でも大丈夫な先生もいると思います。

(出席者③)

教えられる人はいますが、子どもたちの時間帯と合うかは分かりません。中学校での話では指導者になるハードルも高いと聞きました。

(市長)

部活動の指導者として、子どものケガへの対処など、そういった知識が必要にはなります。

(出席者④)

学校のクラブ活動の指導者になるには資格が必要でハードルが高いため、中学校の部活動を行う NPO 団体を立ち上げるなどして、その活動を引き受けてほしい。

(市長)

部活動は昔と様変わりし、学校単位でのチーム編成ではなくなってきました。バレーボールで優勝したチームはかほくのクラブチームで、全国大会にも出場しています。また、鶴来地域の剣道の選手は、小松市の桜木道場に参加し、県大会で優勝して全国大会に進出しています。このように、子どもたちは、求めて色々なところに行くようになっていきます。地域スポーツクラブの設立や趣味や地域の伝統行事をクラブ活動とすることも考えられます。

◆学校の負担が減り、地域の味方が増えた 地域の力を生かした教育活動を提供

(出席者⑧)

去年、コミュニティスクールが始まった際は不安がありましたが、現在はコーディネーターの存在が本当に助けになっていて、委員の皆さんと知り合い、距離が近付いたことで、(学校の)味方が増えた実感しています。動き始めたころは、ボランティアにも関わらず金銭を要求されたり、学校が希望していないことを提案されたりすることもありましたが、コーディネーターのおかげで、学校が希望するボランティア活動となっています。学校の負担が減り、味方が増

えたことで本当に助かっています。これからも、この活動を続けていきたいと思います。

(出席者⑨)

コーディネーターの方が学校と地域をつなげてくださっていることに感謝しています。学校のニーズに合わせたボランティア募集や地域のゲストティーチャーと子どもたちが直接関わる活動が数多く行われていて、地域の良さや力を活かした教育活動ができています。

(市長)

貴重な意見を多くいただきました。コミュニティスクールに関しては、学校運営に協力いただいて、蕪城小学校においてしっかりと機能していることが分かりました。今後も、学校と地域が心を開いて気軽に話し合い、互いをお願いしたりされたりする関係が続いてほしいと思います。